



文化財愛護シンボルマーク

このシンボルマークは、ひろげた両手の手のひらのパターンによって、日本建築の重要な要素である斗拱（ときょう＝組みもの）のイメージを表し、これを三つ重ねることにより、文化財という民族の遺産を過去、現在、未来にわたり永遠に伝承してゆくという愛護精神を象徴したものです。

おばまちょうこうくうしゃしん
小浜町航空写真



あさひやまいせき
朝日山遺跡



くにさきいせき
国崎遺跡

うんぜんし まいぞうぶんかざい 雲仙市の埋蔵文化財について

おばまちょう みなみくしやまちょう まいぞうぶんかざい
～小浜町・南串山町の埋蔵文化財～

わんどういせき
湾頭遺跡



ながさきけんうんぜんし きょういくいいんかい
長崎県雲仙市教育委員会

みなみくしやまちょうこうくうしゃしん
南串山町航空写真

おぼまちょう まいどうぶんかざい 《小浜町の埋蔵文化財》

朝日山遺跡は、市立小浜小学校東側丘陵の標高40~45mの斜面に広がる遺跡です。旧小浜町の町営住宅建設に伴って、1980年に発掘調査が行われました。約2千5百年前の縄文時代の終わり頃の遺跡で、調理を行った痕と考えられる炉跡や、当時の人が使用した土器と石器が2000点ほど出土しました。土器はヘラ状の工具で土器の周囲に刻目を施すものや、土器を作る際に使用した、編物や織物などの布の模様がついた土器、表面がきれいに磨かれた土器などがあります。この土器は、南島原市深江町「山の寺遺跡」のものと同じ特徴を持っており、『山の寺式土器』と呼ばれる、縄文時代の終わりごろに多くみられるものです。石器は、矢じり・打製石斧・磨製石斧などが発見されました。このなかで、中国大陸からその技術が伝わったと考えられる『扁平片刃石斧・小形方柱状石斧』（磨製石斧の種類）が、日本の縄文人が昔から利用していた磨製石斧の素材である「蛇紋岩」で作られており、大陸からの新しい文化や技術と縄文時代の古い伝統の両方の特徴を見ることができます。朝日山遺跡は、後に続く新しい時代「弥生時代」へと移り変わる頃の様子がよくわかる貴重な遺跡です。



刻目のある土器（上） 磨かれた土器（下）



編物や織物などの布の模様がついた土器



矢じり 打製石斧（土を掘る道具）



扁平片刃石斧・小形方柱状石斧



小浜町湾頭遺跡の百花台型台形石器

小浜町山畑地区にある遺跡で、農地基盤整備に伴い発掘調査が行われました。写真は約1万5千年前の百花台型台形石器と呼ばれる長さ1cm程の石器です。通常は黒曜石と呼ばれる黒いガラス質の石で作られますが、この石器は「碧玉」と呼ばれる綺麗な緑色の宝石で作られており、他の遺跡では見つかっていない大変貴重な出土品です。

みなみくしやまちょう まいどうぶんかざい 《南串山町の埋蔵文化財》

くにさき いせき たちはなわん くにさきはんとうせんたんぶ かいがんぶぶん ひろ ねん くにさきはん
 国崎遺跡は、橘湾につきだした国崎半島先端部の海岸部分に広がります。1986・1988年に国崎半
 とうこうえんせいびじぎょうともな はくつちょうさ おこな すなはま ひろ かいすいよくじょう わき
 島公園整備事業に伴って、発掘調査が行われました。きれいな砂浜が広がる海水浴場の脇からたくさ
 んのどき せつき はっけん おわ ごろ やく せんねんまえ せいじん へいあんじだい
 土器や石器が発見され、縄文時代中頃から終り頃（約4千年～3千年前）と、奈良時代・平安時代
 （約千年前）の遺跡が存在することがわかりました。縄文時代の遺跡からは多くの土器や石器が見つかり、
 なか さかな つき さ もり あみ おもり ぎょうろうく かんが めだ かいがら
 中でも、魚を突き刺す「鈎」や「網の錘」など漁労具と考えられるものが目立ちます。また、貝殻
 さかな ほね み とくじ ひと ぎよぎょう せいかつ かんが
 や魚の骨も見つかり、当時の人たちは漁業によって生活をしていたと考えられます。また、見つ
 かったどき みなみきゅうしゅう せとうちほう とお ちいき ひとびと こうりゅう
 土器には南九州や瀬戸内地方のものもあり、遠い地域の人々と交流していたこともわかります。
 ならじだい へいあんじだい おお とき み ぎよぎょう おこな かんが どう
 奈良時代・平安時代になると、多くの土器が見つっていますが、漁業を行っていたと考えられる道
 具はほとんどはっけんされません。時代とともに生活の様子が変わっていったことがわかります。当時の日本
 は、ちゅうごくたいりく ちょうせんはんとう くにくに こうりゅう とき たたか
 中国大陸や朝鮮半島の国々と交流したり、時には戦うこともありました。当時の長崎にはどこ
 かにがいこくから くふね みは げこしよ よ くにさきはんとう か のうせい
 外国から来る船を見張る「警固所」と呼ばれるところがあったとされており、国崎半島もその可能性が
 あります。当時の国崎半島は日本の国を守る最前線基地だったのかもしれない。

矢じり



もり鈎

かいたいく解体具

あみおもり網の錘



じょうもんじだい せつき
縄文時代の石器

みなみきゅうしゅう とき せとないかい とき
南九州の土器 瀬戸内海の土器

じょうもんじ だいなかごろ じょうもんじ だいの おわ ごろ とき
 縄文時代中頃から縄文時代の終り頃までの土器。
 じだい ちよう そざい ねんど へんか
 時代ごとに模様や素材の粘土に変化があります。



ならじだい へいあんじだい とき
奈良時代・平安時代の土器

なら へいあんじだい とき ちょうせんはんとう つた ぎじゅつ
 奈良・平安時代の土器は朝鮮半島から伝わった技術を
 もち じょうもん とき こうおん や かた かんが かんが じょうぶ
 用い、縄文土器よりも高温で焼き固めるため、硬く丈夫な
 とき いろ てさわ おお ちが すえき よ
 土器になり、色や手触りも大きく違います。須恵器と呼ん
 とき くべつ
 で土器と区別されます。

しなひ おおむかし ひとびと く こんせき のこ
 市内にはあちこちに大昔の人々が暮らした痕跡が残っています。

み とき せつき せんぞさま じっさい つか
 見つかった土器や石器はみなさんのご先祖様が実際に使っていたものかも知れませんよ。

まいどうぶんかざい きちよう れきしいさん みな ほこ みらい のこ
 埋蔵文化財は貴重な歴史遺産です。皆で保護し未来へ残しましょう

